

2025年度
八戸学院大学
地域経営学部 地域経営学科
学校推薦型選抜

小 論 文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

次の文章を読んで、下記の設問に答えて下さい。

日本政府が提唱する次世代社会のビジョンである Society 5.0 を目指す現代社会は、IoT や AI、5G などの技術の向上により、ビッグデータの考え方が広く浸透し、データ駆動型社会とも言われています。データ駆動型社会は、多様なデータを大量に分析し、その結果を現実社会に活かすことで、新たな価値を創出し、生活の質を向上させることを目指しています。

現代の経営戦略や問題解決には、経験や勘に頼るのではなく、データを収集・分析し、客観的な判断を行うためのデータサイエンスに関する知識・能力が求められています。

しかし、社会に溢れる膨大なデータは存在するだけでは意味がありません。データをどのように活用するかが重要で、これを「DIKW モデル」と呼ばれるフレームワークで説明できます。DIKW モデルは、データ (Data)、情報 (Information)、知識 (Knowledge)、知恵 (Wisdom) の 4 つの段階に分けて、データの活用方法を示しています。このように、データから始まり、情報、知識、そして知恵へと進化していくことで、より効果的な意思決定や問題解決が可能になります。

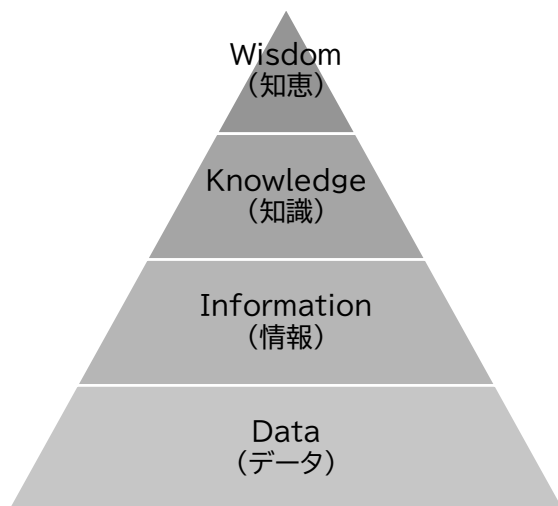


図 1 DIKW モデル(ピラミッド図), Russell L. Ackoff (1919-2009)が 1980 年頃に定義したモデル

【設問】 DIKW モデル (ピラミッド図) に基づいて、データと情報、知識と知恵の違いを身近な例を使って説明してください。

(500 字～800 字程度)